

第 3 回

高校生
未来
サミット
2021

2021

未来への提言。

KOKOSEI MIRAI SUMMIT 2021

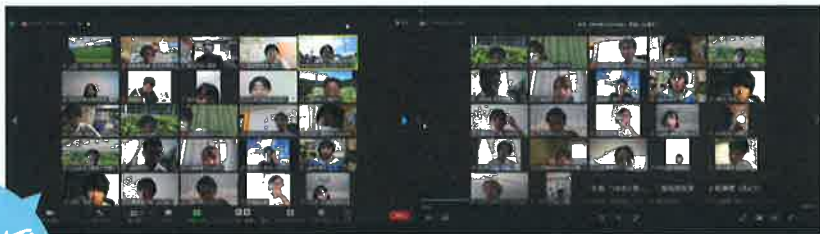


高校生
 未来サミット
 登山図(スケジュール)

ちょっと真剣に
 未来を考えてみた

福島原発事故以降、
 大勢の大人たちが、
 未来をテーマに議論をした。
 でもこれから五年後、十年後に
 大人になるのは、いまの高校生。
 彼らがどういうビジョンで
 「未来」を捉えているのか。
 この「高校生未来サミット」で
 出しあった様々なアイデアは秀逸。
 そして議論のレベルも高かった。
 これからの彼らの活躍を、
 期待せずにはいられない！





オンラインで
参加した
高校生たち

25年前に市民・農家の募金で作られた食品分析センターで働いています。企業や国が測定しないものでも測定し、科学の力で市民に正しい情報を提供してきました。私たちはいつでも手軽に食品を購入することができ、安価で効率的に製造されることは重要ですが、その裏で誰かを搾取したり、健康や環境に負荷をかけていないでしょうか。皆さんが身に着けた知識や技術を誰のために使うかを考えることが大事です。



放牧、再生しながら被害の軽減と、炭素を農地貯留するモデル作りにも取り組んでいます。今の若い世代の皆さんは、自分で考え行動できるので期待しています。

震災後に福島へ移住し、避難区域で放された牛を保護してきました。牛の力を借りて耕作放棄地だった大熊町の農地7haを再生しています。被災地の復興に留まらず、中山間地の耕作放棄地に牛を

谷口つとむさん



6月19日
モーモーガーデン



6月5日
農民連食品分析センター
八田純人さん



私の地区では水田の用水路6kmの整備をボランティアの皆さん40名が支援してくれました。震災直後の用水路整備にも多くの皆さんが来てくれました。住民だけでは地域維持が難しくても、新しいテーマ型コミュニティが一つの解決になる可能性があります。

4月24日
喜多方市 ひぐらし農園
浅見彰宏さん



オンライン学習
誰に学び未来を考えるか

学ぶ



太陽光発電所は日本中で増えていますが、施設の所有者が多数です。私たちは、自然景観や住民合意も考慮しながら設置を進めています。2050年に温室効果ガス排出ゼロを達成する世代の中心は高校生です。

農業と太陽光発電の複合経営をしています。太陽光発電の下のスペースで農業を行う営農型発電を今年から開始し、蕎麦やジャインマスカットを栽培する予定です。

5月8日
二本松営農ソーラー株式会社
近藤恵さん



考える・伝える

オンライン未来サミット 8月28日

メンバーの考えで新しい発想へ

放射線が福島農業にどんな影響を与えているか、農業への興味をどうやってもっと増やそうかを話し合った。学校の授業で農業に触れる機会をもっと増やしてはどうかなどの解決策が出された。メンバーの話を聞く中で新しい発想や、自分の意見を深めることができた。

1班



2班



小さなバージョンアップを繰り返す

太陽光発電が普及しているけど、地域外からの参入、企業と住民の情報量の格差、景観維持の価値観の違いなどの課題があることが分かった。企業や地域の垣根を越えたネットワーク作り、話し合い、学び合いが解決に役立つのではないかな。知る、学ぶことで当事者意識が生まれ、解決の道筋を考えることができる。小さなバージョンアップを繰り返すことで市民の意識や行動の変化に貢献できる。

自分の体に入るものだから知りたい

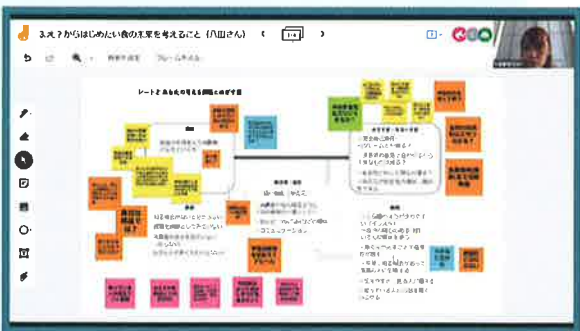
食の安全について知る機会が少ない、添加物が多いことを課題だと思っていない、知ったら気持ち悪い、自分の体に入るものだからしっかり知る必要があるなどの意見が出された。市民が知りたいと行動することで、製造者に商品動画を作ってもらい、学校の授業で食品表示について学べば、家庭でも話題になるはず、SNSで情報を得やすくするなどの解決策が出された。

3班

家庭菜園で野菜を作り、炭素を土に貯めよう

大熊町での牛の放牧、放棄地再生、炭素貯留などを学び、環境との共生について考えた。牛のげっ歯の温暖化への影響は？という質問に対して谷さんからは、適正な放牧や農地活用をすれば大きな問題ではないことや、今までの畜産の方法を変えていくことで解決できることも学んだ。もっと家庭菜園を増やして、野菜の生産と炭素を貯めようという解決策も出された。

4班





ささき牧場カフェ



福島市

視察の合間にホッとさせるカフェで、地元のみさびや産品を活かしたソフトクリームをいただく。小さな牧場の取組だが、持続可能な産産を作っている。



玄米全袋検査

相馬市 浜通り農産物供給センター



原発事故の翌年から続く玄米全袋検査を見学。バスの外の風景からは震災の影響は見えないが、農産物の安全を確認するために努力が今も続けられている。



食の安全についてのドキュメンタリーを見て、グループ毎に感想や意見を出し合う。一日の疲れは温泉で癒した。



グループワーク



土湯温泉ゆもり



震災遺構 請戸小学校

浪江町

海沿いの浪江町請戸小学校は、10年前の津波被害をそのまま記録し、伝える施設になっている。黒板には地元の方の復興への願いや祈りが記されている。



小水力発電

土湯温泉

震災時の停電を経験した地元市民が、「自分たちの使う電気を作ろう」と立ち上げた小水力発電を見学。水の落差を活かし、今日使っていた電気に利用されていた。



ソーラーシェアリング

二本松市宮農ソーラー



太陽光発電の下でシャインマスカットや蕎麦、えこまを栽培する「ソーラーシェアリング」を見学。影の影響は？一番下でイチゴも作れます？

アグロエコロジー試験圃場

あたら食農 Schoolfarm



二本松市のアグロエコロジー試験圃場は有機栽培区、有機不耕起栽培区で食べる人と作る人が新しい農業に取り組んでいる。「ここは失敗を共有し成長する場所」でもあります。

福島大学食農学類

福島市



福島大学食農学類の最新鋭測定機材見学では、高校での授業ともリンクするので食いつきが違う！福島大学に来るかも。最後のワークショップはみんな話しが止まらず、時間が足りなかった。





感想文

高校生未来サミットを終えて



● 福島で暮らす私にとって初めて見たものや聞いたことが多く、大変勉強になった。大阪の高校生の率直な意見を聞き、福島県内に住んでいる私にはわからない県外から見た福島県について知ることができて良かった。福島県に住んでいても県内の被災地を訪れることはほとんどない。自ら現地を訪れて、実際に当事者の人から話を聞き、事実と向き合うことが大切であると感じた。

● 米の線量による危険がないということを確認するために、QRコードを貼るなど工夫があつて凄いなと思ったが、まだそれができないと安心して買うことができないのが残念に思った。

● 今までテレビの中に映っていた世界を目の前にすると、言葉が失った場面も多かった。それと同時に自然災害とは何なのか、そして自然の強さというものについて改めて実感させられた。

● 請戸小学校の黒板に応援メッセージが寄せられていたけど、少し文句などが書いてあり、すべてをなくするのは不可能でも、少なくともできるよう助けや災害後の対策などができるといいし、自らも行っていきたいと思った。

● 汚染や洪水によって多くの人が苦しんでいることをわかりやすく教えていただき、自分たちにもできることがあるということを知った。

● 福島は宮城や岩手と違って、ゼロからではなくマイナスからのスタートと言っていたのが印象に残った。

● 現地はまだ復活できていない所を見ると、一気に他人事じゃないと実感がわいた。現地の大学生も福島の魅力を自分たちに伝えようとしてくれていて、うれしかった。

● 福島の問題について学んでいると思っていたけど、日本全体の問題だと思った。福島に対する考えが変わった。学校で授業を受けているより、実際に行ってきた方がすごく考えさせられることがある、勉強になった。福島が農業や発電に対しても、どれだけ試行錯誤しているかを取り上げてほしいと思った。じゃないと福島のイメージが変わらないんじゃないかと思った。





● 最近農業について授業を受けた。その時は、説明に従って使えば害はないと教えられたのに今回はその逆で言われたので

● 米の放射能検査や高速道路を走っていると、今の放射線量が見える形があつて、風評被害や福島イメージがない人にとつて安心できる環境になつていふと思つた。お弁当や飲み物、ソフトクリームなど福島の食べ物はとてもおいしかった。食や福島に住んでいる人の優しさ、気さくさ、バスの中から見た景色など福島の良さを知り、満喫することができた。私たちは、知らされないことが多すぎるので自分から感心を持ち、学んでいく必要がある。

なったり、他県と比べ市場価格を下げないと売れなかつたり、どんどん農業に携わっていく方が減り続けていくのではないかと

● 米の放射能検査に多くのコストを使つても安全性を証明しなければ、福島県産の農作物を消費者の方に買ってもらつてしまつていない状況になつてしまった。福島県産への先入観や悪いイメージで農作物が売れなくなつたり、

● 請戸小学校で、震災がどういうものか知ることができた。他に震災などが起こつた地域にボランティアに行きたいと思つた。

どうしたらいいのか考えた。



● 10年前に災害があつて、被害を受けたにも関わらずここまで復旧していることに驚き、現地の人たちや震災の復旧に携わつた人たちが頑張つた結果だと思つた。農業にも地域にも違った特色があつて、色んな繋がりがあつたことを知れて良かった。

● あだたら食農スクールファームでは、雑草が生えた

まま作物の栽培をしていて、授業では除草しないと怒られるからびつくりした。また、日本人口の1・5%しか農業をしていないという話を聞き、日本の農業の深刻さが分かり、農業を発展させなければまずいと思つた。福島のみ価値が2011年からドンと下がり、他県の米と比べると価格が低いままなので、現地での体験を色々な人に伝えていけたら良いと思つた。

● 自分の目で現地を見た方が考える時間や影響力がとて大きいので、現地に行くのはとても良いことだと思つた。



